

# 東京龍門会報

発行所  
東京都品川区五反田2-21-20  
株式会社 国分電機内  
電話(445)6311  
東京龍門会  
発行人 国分和夫

総会会場風景



## 東京龍門会も

### “オンジヨモン”から “ワケモン”の会へ!!

早いもので今年でもう十回目を迎える東京龍門会の総会が、去る六月十二日(土)に例年の会場である三州クラブ(品川区上大崎)で開催された。総会には加治木高校の歴史を物語るがごとく、明治四

十年代に卒業されたという大先輩から、旧高女を含め昭和五十年代卒業の同窓生約一五〇名が参加した。中でも四十才台が多くまた女性の参加が目立ち、東京龍門会発足当時の“オンジヨモン”の会というイメージから“ワケモン”の会へと移りゆく感があつた。

総会は東京龍門会会長国分和夫氏のあいさつに始まり、同窓会会長新納教義氏、母校の淵脇正男学校長、それに会員を代表して浜田尚友氏から時局談義が、また来賓として列席された恩師の砂川恵路先生(数学担当、現在娘さんの家に同居中)からそれぞれ挨拶がなされた。

国分会長は「加治木高等学校校教育振興会」への基金募集にあたり会員各位のご協力に

より目標額の三百万円が達成出来たことへの感謝と、引き続き母校の興隆ならびに後進育成のために基金活動を続けて行きたい旨の挨拶を、また新納同窓会長は同窓生の伊丹明氏(昭三卒加治木出)の大東亜戦争当時における目覚しい活躍ぶりを披露され、淵脇学校長からは新任(上原実前校長の後任)の挨拶と母校の現況報告があつた。

続いて議事に入り56年度の事業報告と会計ならびに監査報告がなされ、57年度の事業計画と予算案が審議されたがいづれも万場一致で承認された。(別項参照)57年度は同好会(囲碁の集い、釣りの集いゴルフの集い)の盛り上がりをも促す旨の要請が酒匂幹事長の方からあり同好会の準備も進められているようである。

とどこおりなく総会も終りパーティーに移り郷里のアサヒ焼酎で懐しい同窓生と盃を交わしながら、談笑のひとときを過ぎ午後五時頃散会した。

## 東京龍門会会長

国分和夫  
(中・大十四卒)

会長を引受けまして早四年になります。その間それらし

き実績もなく今日に至っていることを心苦しく思っております。ただ皆様のご協力でもうにか務めさせておられるようなわけで、母校の教育振興会の基金募集の方もお陰さまで目標の三百万円に何とか達成させられ皆様に感謝いたします。これからも母校の興隆と後進の育成のためにご協力をお願いする次第でございます。東京龍門会員の方々の中には多士才たでございまして、昨年山口正(昭二中卒)さんと安田清広(昭四中卒)さんがそろって勲三等を受賞されました。またご存じの海音寺潮五郎さんの亡きあと西郷南州翁をつぐ第一人者としてご活躍中の浜田尚友(昭中卒)さんとか、国会議員の村山喜一(昭中卒)小里(昭高卒)さんなど、同窓生として同時に現職としてご活躍されるということは極めて希なことではないかと思っております。その他警視庁や教育界で今なお活躍中の方々が多勢いらつしやるので我々同窓生は非常に力強く思っております。それから昨年は名簿を新しく改訂いたしました。なかなか思うように正確な情報を得られなかつたりして不

備な点が多いかと思えます。皆様の間で少しでも正確な情報を提供していただければ次の名簿作成ではより正確なものが出るものではないかと思えます。是非ご協力ください。いづれにしましてもこの東京龍門会を皆様と一緒に携え盛り返し、よりいっその発展を願ってやみません。

## 同窓会会長

新納教義  
(中・昭六卒)

昨年四月の同窓会総会から佐藤八郎前会長の後を引き受けて同窓会の会長になりました。引き受けさせられた理由の一つに、加治木高校の卒業生の中で、学校へ歩るいて3分ぐらいの所に住んでいるものから学校に一番近い者ということが大きな理由ではなかつたかと思っております。さて同窓生の方々の多大なるご援助をいただきました。加治木高等学校教育振興会も今では順調な運営がなされております。同窓会として良い後輩を育てるということが、めぐりめぐって私ども同窓会が盛んになっていく道であろうかと考えておりますので今後も

このような型でのご援助を心からお願いたします。

実はここでご紹介しておきたいことがございます。それは週刊新潮に今連載中の山崎豊子さんがお書きの「ふたつの祖国」という小説の中に出てくる主人公健次は、我々の同窓生伊丹明さんのことで、まさに伊丹明さんの伝記であるということ。山崎豊子さんが加治木に取材にこられ曾木隆輝(前加治木町長)さんを探ねられたのですが、その時はすでに他界されておりました。やむをえず私のところへお見えになりました。加治木中学時代の伊丹明さんについて知ってるかざりのことを出来るだけ詳しく話してくれということでした。それが今年の2月週刊新潮で連載が始まったのが6月ですからもうすでにお読みになった方はたびたび加治木中学校の名が小説の中に登場してきたことをご記憶のことと思えます。この伊丹明さんの話につきましては鹿兒島で国体が開かれその後で引き続き開催されるパラフィックスに皇太子ご夫妻がお見えになった時、両殿下に対し鹿兒島の史風についていろいろ抽象的にお話してもなかなか薩

摩の人間という者が具体的にわかりにならないだろうと思ひまして、私は一つの典型的な薩摩の人間の生様というものを具体的に話し、それを通して薩摩の人間像というものをとお受けとりいただきたいという前提で、私は伊丹明さんの話を約一時間ぐらい話したわけでございます。

伊丹明さんは昭和三年に加治木中学校を卒業された方で学生時代は典型的な国粋主義者で、校外での生活は洋服はかなぐり捨てて常に羽織、袴の姿の人でした。同期生の方でもあまり記憶に残っておられない方のように、私も同じ加治木で育ちしかも加治木の「青雲社」という所でいつも一諸でしたので、その場で見かける伊丹明さんは非常に国粋的な人間であつたということ覚えております。漢文の得意な方でしたから中学を卒業後は大東文化学院へ進まれ、当時は難しい漢文を暗記しておられ漢文の大家でした。大東文化学院を卒業されとも二世の方でしたのでアメリカへ帰国されたわけでございます。

昭和16年に大東亜戦争が始まりまして、加治木で伊丹明

さんを育てあげた当時の曾木隆輝さんは戦争が始まった時はドイツの大使館に勤務しておられました。伊丹さんはアメリカのサンフランシスコ日報の新聞記者になっておられたわけ。私は外務省に入つたばかりです。山本五十六海軍元帥が戦死されたのは確か昭和18年4月16日だったと思ひますが、この戦死の理由はすでに明らかになっておりますのでご承知だと思ひます。アメリカ軍は日本の海軍の暗号を完全に解読していたわけ、即ち4月16日の午前6時にトラック島にいました日本の軍艦「武蔵」から海軍の前戦に向つて、山本五十六元帥の前戦視察のスケジュールを暗号で打つたわけ。それをアリューシャン基地のアメリカ軍が傍受し暗号のままをアメリカ海軍省の暗号解読班へ廻し解読させてみたら、山本元帥の視察のスケジュールであることがわかり、アメリカはただちに南太平洋のヘンダーソン基地に山本元帥攻撃の作戦命令を出し、山本元帥の乗った飛行機を待ち伏せしていたところ、丁度スケジュール通りに来て撃墜されたというのが山本元帥の戦死の真

相でございます。ですからその時点では日本は暗号の戦いで敗北を期していたという現実があったわけです。従ってドイツにある日本の大使館と東京の外務省との間の機密連絡が全く出来なくなつたというような状況に陥つたわけですから。このような状況の中で鹿兒島弁を使用するというすばらしいアイデアがひらめき、当時ドイツ大使館におられた加治木町出身の曾木隆輝氏と外務省の囑託であつた牧ひでしという日置郡出身の純粋な鹿兒島県人同志の間で国際電話を定期的に借り切つて、暗号に変わる機密連絡を鹿兒島弁でやりとりするという方法がとられたわけです。この方法はかなりの間顕著な効果をあげました。当時のやりとりについて私は戦後曾木さんに詳しく聞かされました。鹿兒島弁で喋るにしても固有名詞と数字は使つてはいけません。これらは敵に解読の手がかりを与えるおそれがあるから、それから出来るだけ早口で喋るというような原則があつたそうです。

ところがその鹿兒島弁での通話も敵に解読されるようになり使用できなくなりました。それをどうして解読され始めたのかは終戦までわかりませんでした。戦後東京裁判が始まり、伊丹丹氏が通訳として日本にこられました。曾木さんは加治木の町長をなされ私は青年団長をしておりまして戦争を受けた裁判所の再建問題でたまたま曾木町長らに私行つたわけでございます。それは昭和22年のことだつたと思います。陳情の仕事が終り曾木さんと二人で伊丹さんを尋ねていきました。代々木にあるワシントンハイイツ(今の代々木公園)の駐留軍の宿舎におられました。伊丹さんにいろいろ珍しいものばかりを食べさせられて、当時我々は全く飢えていましたので、その美味しかったこと「アメリカンシハ コゲナヨカモンヌクテオツデ ツエカツタトグワンソナー」というようなことの談笑で一夜を明かしました。その時です。伊丹さんが曾木さんに云われるには「あなたはドイツから放送をされませんでしたか」と曾木さんは最初さっぱりわからず、「何のことですか」と聞きなおされますと、伊丹さんは「鹿兒島弁での放送を、あなたは

しませんでしたか」曾木さんはしばらくして思い出したように「あ、そのことならドイツ大使館にいるころのことでしょう。確かにドイツでやっていました」と前に話したようなことを伊丹さんに話されると、伊丹さんは「やっぱあなたでしたか、そうでしたか」と合点したかのようにお互い当時の状況について話しが出まして、初めてその真相を知ることが出来たわけでございます。

## 加治木高等学校長

瀧脇正男  
(中・昭十六卒)

この四月から上原実前校長の後任として母校の校長を務めています瀧脇(中・昭十六卒)でございます。昭和53年に始められました「加治木高等学校教育振興会」はその後教育的効果をあげつつ順調な運営で軌道に乗つてきております。東京龍門会各位のご協力に心から厚くお礼申しあげます。次第でございます。それに加え先輩諸氏の心温まる事業活動に在學生が刺激を受けていることが地方においては貴重なことではないかとかねがね思っております。またこの振興会

制度について最近県内の2、3の学校から、内の学校でも始めたいのでその方法など教えてくださいたいといった問い合わせもあるぐらいです。

さて加治木高校の現況でございますが生徒数一二四三名・職員数八〇名で、職員の中には進学指導経験者が二二名もおられます。学力充実の面では心強く思っております。また体力の養成と心豊かな人間の育成ということで、スポーツはもちろんのこと勤労体験学習というものをカリキュラムの中に取り入れ実施しております。これらは全て年間の主なる学校行事(別項参照)として、全学年を通して計画的に行なわれております。卒業生の進路状況にしましては他校に比べ進学率(別表参照)は高い方でございます。スポーツ面では水泳や女子のバレーボールが地方大会で優勝しましたし、陸上部門に至っては南九州大会に出場するなどして活躍しております。それから同窓生にとつて最も思い出深いあの大楠の枝が最近枯れかかってきました。鹿大の農学部先生や農林省その他専門家に来てもらつて調べているのですが、以前セ

メントで塗りつぶしたことがあるのでどうもそれが原因ではないかということ。大楠の寿命は後一〇〇年はあるそうですからまだまだここで息を入れかえさせないと、ということ。学校あげてみんなで懸命の努力をしております。ろでございます。

《年間の特色ある学校行事》  
○創立記念日(4月21日)  
○記念式典のあと記念講演を

輝かしい伝統を確認し、限らない躍進への心がまえをつくるものです。  
○教育キャンプ(一年)

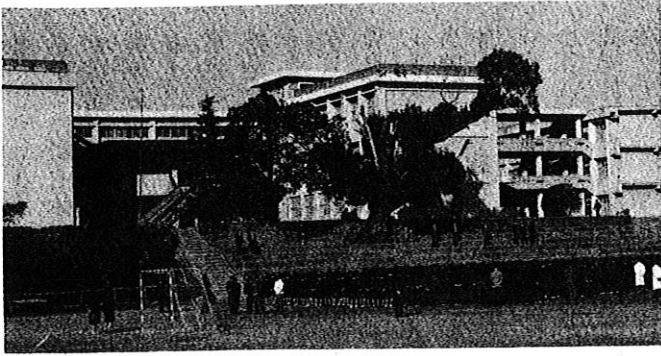
ここ数年大口市十曾の青少年旅行村で実施、同じ釜の飯を食べ、寝泊りすることによって友情を深めまた勤労、団結の尊さを再確認し明日への希望を見出すと共に高校時代の楽しい思い出となつていきます。

○霧島縦走(2年) 高千穂登山(3年)

登山の途中は苦しいが、完走し頂上をきわめた時の満足感。それは本人だけが味わえるもので、その喜びを友達と分か合う時の楽しさは格別です。

○体育祭、文化祭  
「加高祭」の名のもとに全員が参加、生徒会を中心に統一





テーマを決め生徒全員が若さをぶっつけ合う時です。  
 ○観劇  
 中央の優れた劇団による真に迫った演技は観客を魅了し深い感動を与えてくれます。  
 ○集団駆足訓練・耐寒訓練・校内マラソン  
 毎週木曜の7限は体を鍛える集団としての行動を身につけるために駆足訓練があります。一月末から二月にかけては耐寒訓練として始業前に走りまします。その総仕上げとして二月に校内マラソンが行われます。きついコースですが落後者は殆どいません。

最近三ヶ年の進学状況

大学	年	55	56	57
国立	北海道大		1	2
	筑波大		2	3
	千葉大		1	
	東京大	3	1	3
	東京医歯大		1	
	東京外国語大		1	
	東京学芸大	1		
	東京農工大	1	1	1
	東京工業大		1	
	東京水産大		1	
	一橋大	1		
	横浜国大	1		
	名古屋大			
	京都大	1	4	3
	京都教育大			
	大阪外語大			1
	神戸大	1		
	鳥取大			1
	岡山	1		
	私立	広島大	7	3
山口大				
愛媛大			1	
高知大				
九州大		17	17	11
九州工大		2	3	1
佐賀大		1		2
長崎大			1	
熊本大		12	10	8
大分大		2		
宮崎大		5		1
宮崎医科大		1		
鹿児島大		83	49	63
琉球大		12	1	6
国立合計	152	99	123	

※57年度 国公立大 阪大2等 計123  
 私立大 福大27等 計207

大学	年	55	56	57	
公立	東京都立大		1	1	
	横浜市立大		1		
	金沢理工大		1		
	都留文科大		1	1	
	岐阜薬大	1			
	神戸市外大	1			
	神戸商大		1		
	北九州大	4	2	7	
	福岡女大		1	1	
	熊本女大	3	2	2	
	高崎経大				
	公立合計	9	10	14	
	国立短大	九州大医療技短		1	2
		熊本大医療技短		3	1
筑波大医療技短			1		
東京都工科短		2		1	
尾道短		1		1	
長崎県女子短		3		2	
鹿児島県立短		11	8	14	
合計	17	13	24		
私立	千葉工大		4		
	青山学院大		4	4	
	慶応大	6	2	1	
	工学院大	4	3	1	
	国学院大		2	2	
	国士館大		1	1	
	駒沢大	4	7	7	
	芝浦工大	4	2		
	昭和女大	3	2		
	専修大	3	2	3	
	大東文化大	1	3	1	
	中央大	5	15	5	
東海大	8	8	2		
東京電機大	2	3	2		

●ありがとうございました。加治木高等学校教育振興会寄附者名

東京龍門会

(56.3.1~57.3.31)

後藤 徳 司	高 6	70,000	大久保 君子	高19	4,000	藤 田 恵 子	高30	2,000
岩 崎 亨	中43	30,000	宇都宮 直賢	中14	3,000	堅 山 進	中30	2,000
肥 後 昇	中43	30,000	川 島 友美子	高 5	3,000	永 瀬 日査子	高 8	2,000
宮 原 信 吉	中41	30,000	木 下 弘	中20	3,000	鬼 塚 洋 子	高12	2,000
松 元 諫	中41	30,000	小 倉 きくえ	女 8	3,000	大 重 正 子	女16	2,000
山 元 満 子	女24	30,000	高 野 俊 明	高19	3,000	小 川 正 夫	中24	2,000
横 山 芳 文	中43	30,000	本 田 光 子	高 9	3,000	坂 元 和	女20	2,000
村 山 喜 一	中38	30,000	竹 上 徹	高16	3,000	岩 切 義 治	高11	2,000
山 下 崇 徳	高12	30,000	桜 井 愛 子	高10	3,000	新 納 美 邦	中41	2,000
市 来 敏 和	高20	30,000	松 田 正 一	高 6	3,000	鈴 木 静 恵	女 3	2,000
馬 場 正 信	中40	30,000	坂 口 俊 子	高 2	3,000	小 川 道 隆	高 6	2,000
石 塚 正 洋	高13	30,000	小 城 道 子	高12	3,000	隅 元 信 治	中47	2,000
堀 江 洋 介	高 6	30,000	大 山 国 雄	中25	3,000	坂 井 修 代	高 5	2,000
永 福 美 恵	女 8	20,000	留 興 堯	中46	3,000	高 城 弘 世	高 2	2,000
山 中 瞳	女27	20,000	吉 山 ミツ子	女 8	3,000	若 松 礼 子	高 1	2,000
樺 山 亨	高 6	20,000	大 迫 勝 尋	高19	3,000	大 窪 良 子	高 5	2,000
園 田 豊	中30	20,000	溝 口 拙 郎	高 4	3,000	日 高 謙 吉	高 7	2,000
豊 重 一	中19	10,000	山 下 リツ子	高17	3,000	吉 川 辰 見	中29	2,000
永 野 秋 則	中38	10,000	指 宿 照 子	女20	3,000	竹 下 哲 郎	高17	2,000
別 府 斎	中37	10,000	堀之内 亨	高 8	3,000	小 浜 光 子	高18	2,000
吉 嶺 達	中42	10,000	高 橋 光 弘	高17	3,000	細 山 田 文 樹	高 1	2,000
上 田 良 俊	中42	10,000	鮫 島 貞 隼	高 2	3,000	東 紘 子	高14	2,000
荒 瀬 侃	中27	10,000	安 部 昌 子	高11	3,000	堀之内 豊	高23	2,000
黒 江 和 弘	高 8	10,000	大 重 愛 子	女19	2,000	長 岡 保 彦	高 3	2,000
山 崎 巖	高13	10,000	山 田 英 子	高 2	2,000	本 村 敏 子	高 9	2,000
轟 霧 子	女19	10,000	細 山 田 文 樹	高 1	2,000	原 田 郁 男	中42	2,000
鶴 来 恒 治	高 1	10,000	飯 田 悦 子	高10	2,000	市 来 明	中41	2,000
後 藤 伸	中40	8,000	上 野 智慧子	女13	2,000	中 西 稔	高24	2,000
中 馬 義 直	中36	5,000	緒 方 雪 男	中24	2,000	田 中 貴美子	高20	2,000
竹 元 勇	中47	5,000	深 川 忠 志	中44	2,000	川 口 澄喜子	高 7	1,000
山 田 英 子	高 2	5,000	秀 平 幹 雄	中41	2,000	梶 原 洋 子	高 4	1,000
福 重 利 夫	高18	5,000	白 屋 三 男	中35	2,000	瀬 戸 千 鶴	高19	10,000
鶴 来 繁	中41	5,000	横 山 国 美	中30	2,000	杉 田 宏	中47	8,000
時 任 英 雄	高 2	5,000	新 名 登美子	高13	2,000	有 岡 司	中44	6,000
川 畑 栄 一	中29	4,000	井 上 正 平	中46	2,000	中 村 登	中44-2	2,000
山 口 澄 江	女14	4,000	古 江 隆 志	高11	2,000	四 本 勝 子	高16	2,000
原 口 四美弥	中31	10,000	今 吉 美 治	中40	10,000	総 計		860,000

昭和二十年、あわただしくも且つ惨めな、あの戦乱のドサクサに何となく追い出されるように卒業？していった同窓生諸兄が綴った小冊子からその一部を抜粋したものである。

この小冊子は旧制中学第44回卒業で関東在住の人達が原稿を寄せ

合って、それを上蘭悟氏、深川忠志氏らが中心になって同窓会誌第一集として編集されたものである。何となく追い出されるようにして卒業させられ、今では加治木高校の歴史からもツイツイ忘れ去られようとしており、そしてお互いにシノビヨル年ナミに抗しきれず、更には旧制中学時代の記憶も次第に失いかけてつある昨今、この辺で一つ今を去る36年前の古き良き時代の思い出を紙に書き記し、我々の過ごした日々を子や孫へと語り伝えようではないか、というのがそもそもの動機で何とも痛ましい。内容は、我が母校の没革命史、我等が中学時代の日本史」といったもので始まり、当時の先生方一人々の人間像をうまうま書きほりにした横顔を、素晴らしき恩師と銘打って紹介されて実に懐しい、そして当時の思い出といえれば何となくも学徒動員であろう。

(その一)

◎素晴らしき恩師に恵まれて

(順不同)

●上田先生

国文法を教えてください。白髪丸がり頭の先生。授業中にわざとシーツシーツと言つて怒らした人もあつたゲナ。

●吉満先生

海兵・陸士の進学校として有名校だったためか戦時中にも英語教育があり、吉満先生の英文法は分りやすく、Tの発音をするときに「ゼツタンを出してツッ」とおっしゃつたのは今でも忘れられない。

●富山先生

広いおでこをさすりながら西洋歴史を論じた先生。歴史年表にいつも赤線を引かせながら、年号を記憶させようと努力されていた、ちよつと大柄でハイカラな先生。

●原口先生

小柄でも一番ピリツとしていた若い東洋歴史の先生。一見短気者で喧嘩早い先生のように見えたが生徒の話をよく聞いてくれる人情味があつた。

●山口先生

オツネサンの愛称で親しまれ、物理の時間にマツチ箱ひ

とつの爆弾で船艦をやつつける話をされたが、あれが原爆だったとは。

●伊知地先生

かまきりの歩き方に似ていたが、きびしさの中に愛情のある指導していた生物の先生で、眼鏡の中に光るひとみは人の心をさすものがあつた。

●砂川先生

角刈り頭に黒ぶちの眼鏡。

毛深い手に握りしめた三角定規がヨーシヤなく頭にゴツンとくる。しかし、数学の指導にかけてはまさに抜群であつた。

●浜田先生

ふとつておつとりしながら、ゆっくりと黒板にの字を書き、その独特な書体に皆が笑うとニコツと振り向く姿が今でも目に浮かぶ。その書体とはとであつたつけ。



●脇本先生

赤ら顔でこれまた黒ぶちの眼鏡。水泳に運動にきたえら

れ、運動場に立たされた人もあつた由。それがダレであつたかはサダカならず。

●迫田先生

ゴヘイサンで親しまれ、体操の時の号令はピカイチ。水泳加中の復活のため、一所懸命な指導。また、話を聞いてくれるやさしさも持っていた若き教師。

●大山先生

八の字ひげに黒ぶち眼鏡。人なつっこいやさしい図工の先生。男くさい学校の中で人間味のある父親のような先生であつたが、一度怒らせるとこわかつた。

●別府先生

十八史略の講義は今でも心の共として残っている名解説であつた。剣道も練士でありなかなか気合のこもつた先生で寒稽古でしばられた人も多かつた。

●米良先生

すり切れた畳の上で、大きな体をクルリと一回転して受身を師範してくれたときの驚きはツイ昨日のよう。指の一本一本が太くて耳がめくられていたのでビックリ。

●米田先生

食糧難が刻一刻と迫りつあるとき、プールの裏の畑に

美事な野菜が育ち、家畜を世話しながら共に汗を流す喜びを教えてくださいました先生。現代の教育界に求められる教師。

●字都宮先生

加治木高女から出張して音楽を教えてくださいました先生。ホンのしばらくだったが、五本の指が五線紙だった。あのとき古びたオルガンがなつかしく思い出される。

泣く子も黙る配属将校二人

●鹿島先生

スタンドで何回号令調整をやらされたであろうか。しかし、軍事教官にしては人間味のある将校であつた。何人も怒られてはいるが、たたかれ人があつただらうか。

●江藤先生

軍帽のひさしをヒットラー張りにピンと立てて、朝礼の時はスタンドに校長と並列に立っていた。上級生がドナラレているのを何回か見て時局が切迫していることを知らされ、心の中を冷たいものが走つたあの時。

逆瀬川校長先生

夜間行軍のとき、軍刀をぶらさげて馬上にまたがった姿は、さすがオイドン達の校長さんであつた。ブルドッグみたいな風格で全生徒をにら





○毎年送っていたく東京龍門会報を拜見して、若かりし日の面影を思んで何時も感懐に耽っていました。今年こそはと思ひながら出席できないのが残念です。

(中・大十二卒 古江重則)

○宮崎に出稼? 満十二年を数え宮崎龍門会の会員にもなっています。

(中・大十四卒 緒方雪男)

○昨秋ヘルペスという奇病で60日余り入院し、右眼失明寸前まで行きながら無事退院。相変らず月刊

かごしま誌に執筆しています。

この「明治維新と薩摩人」も既に百回、あと一年か二年以内で完結したいと念じつつ書いています。

(中・昭二卒 浜田尚友)

○七七年卒の明治三八年五月二七日は日本人にとって忘れられない日本海大海戦の行はれた歴史的日子である。この海戦の提督はわが郷土の誇る世界的偉人東郷元帥であった。元帥の処世訓に「熟慮断行・寛容」ということが述べられている。日本海海戦の折に元帥はバルチック艦隊の首元を押えるために取舵いっばいのいわゆるT字型戦法をとられた。この戦法は当時玄人筋に伝わると大担とも無謀ともいわれたそうだが元帥は取

えてこれを断行され、海戦を我が方の大勝利に収められた。そこには元帥の熟慮断行の勇気があったものと思はれるのである。今日日本の各界には、この偉人の熟慮断行の大精神を必要とする分野が余りにも数多く存在している様に思われるのである。

りです。

(中・昭二卒 大八木敏夫)

○龍門会が開かれる時期はいつも他の行事と重なり出席できず残念でしたが今回は他に予定もなく当日を楽しみにしていました。七三才を迎えましたが元気で多忙な日を送っています。三年程前から江東区墨田区を中心に鹿児島県人会を発足させ、この会長を務めさせられるなどして健康保持のためにも思い頑張っています。

(中・昭三卒 泊正徳)

○東北新幹線の上野駅地下も現在地下三〇米まで掘り下げが進んでいます。元気で消光致しており

ます。

○一年一回会えるを繰り返しているうち何時しか還歴を迎えた。同級の白浜校長去り上原校長もまた：先輩後輩に楽しく会えることは明日への活力を与えてくれる。

(中・昭十四卒 永野秋則)

○第96通常国会から党の国会対策委員長に選任され国会運営の一翼を担って頑張っています。

(中・昭十四卒 村山喜一)

○五月晴れを茅ヶ崎徳洲会病院の病室の窓より眺めている次第です。窓からは江の島が見えます。

(高女・昭十七卒 齊田トシ)

○大鳴門橋ケーブル架設工事のため徳島県鳴門市に長期出張して

ります。

(中・昭二四卒 浜田哲夫)

○週刊誌その他で後輩の進学状況を

を知りその奮斗ぶりに感謝して

ます。母校の発展をお祈りします。

(高・昭二五卒 吉嶺權郎)

○法事のため七月ぶりに帰省し、

一泊した義妹宅(徳重耳鼻科医院

の庭先から見える母校の昔と変

らぬ広い運動場に、運動会で女子

銀輪ワルツでみごとな自転車演技

に思わず目を見はった昭和24年

ころのことが懐しくよみがえりちよ

つぱり感傷的になりました。

(高・昭二五卒 大重幸子)

○久保田彦穂先生の「椋鳩十の世

界」が出版されています。終戦時

の旧校舎での授業などなつかしく

拝読しました。ご上京の機会があ

れば龍門会でお話を伺いたいもの

です。

(高・昭二五卒 松元経子)

○現在新潟市に単身赴任していま

す。先輩友人だれもいないかと思

いましたが、北陸農政局の上水流

氏とめぐり会えました。彼も単身

赴任だそうです。

(高・昭二六卒 古江孝生)

○年来精進しております俳句で、

ぼつぼつ句集ぐらい発行したいも

のと今ではそれを宿題にしてい

ます。(高・昭二六卒 本田 一)

○昭和六年から二二年三月まで教

学の教師をしておりました義父(

砂川忠路)が私共と同居しており

ます。

(高・昭二七卒 新村敏郎)

○藤沢市から平塚市河内二二三

三二へ越しました。相模川を渡り

藤沢まで勤務しています。

(高・昭二九卒 坂井修代)

○教科書づくり携わって二一年

ますますむすかしくゆとりがなく

なつてまいりました。

(高・昭二九卒 殿村圭子)

○ひき逃げに遭って一年半いまだ

に歩行に苦痛を感じます。車は

走る凶器を身にしてみています

が諸兄姉も車にはくれぐれも注意

を!!

(高・昭三〇卒 長谷場純一)

○毎年五月になると楠木の燃える

ような新芽を思い出します。久し

く見る機会に恵まれません。今年

こそ同期会を開きたいと思ってい

ます。その節は同期のみなさんは

非参加を!

(高・昭四六卒 木佐木学)

○今年卒業三〇年を迎えます。

霧島で同期生一同の集いが計画さ

れている。二度とないこの年に万

難を排して行こうと思つています。

また今年は四期生の在京幹事を務

めていきます。どうぞよろしく。

(高・昭二七卒 木佐木卓郎)

○家づくり携わって十五年この

仕事に生き甲斐を感じています。

建築をお考えの方お力になります。

(高・昭三九卒 竹上徹)

○中一男子小四女子を加え家族四

人、ささやかに幸せに活してい

ます。

(高・昭四〇卒 萩原法子)

○加治木魂を忘れずに新たな仕事

に取り組んでいます。

(高・昭四一卒 市原直)

○帰鹿した時、前は家から桜島が

見えたのですが、立ち並ぶ家々

ですっかり見えなくなり故郷はど

こにいったのかと寂しく感じまし

た。(高・昭四一卒 小林糸路)

○きれいな標準語?を忘れてしま

い、子供が学校の先生に変なアク

セントでおかしな言葉づかいをし

ていると云はれ、鹿児島弁では叱

られないと苦笑している毎日です。

(高・昭四三卒 橋本ちづ子)

○五月十九日に次男が誕生しまし

た。(高・昭四六卒 寺田芳子)

○左記の方々が亡くなられました。

ご冥福をお祈りいたします。

森 徳治(中・大十五卒)

佐土原 勇(中・昭五卒)

中摩正照(中・昭二一卒)

△昭和二〇年に卒業され

た方々の同窓会誌による

と、昭和十六年に勤労奉

仕を義務化した「国民勤

労報国協力令」なるもの

が発令されている。それ

から四十年。今母校で勤労体験を

学習の一部としてとりこんでいる

という話……。

編集後記

△その意味内容はともかく戦前戦後は学生にとって、イヤといっほど勤労させられ、むしろウンと勉強?したかった。といえれば聞こえはいいが、当時の人々の勤労精神がのちの日本の高度成長をもたらした原動力になったとはいえないだろうか。

△昭和一ケタも遠くなった。あなたのお子様の勤労意欲はいかがですか?お元気で(堀中)